



激動の時代を不屈に生き抜いた菊池英毅さん逝く

1988年の入党いらい、いつも明るく元気に活動を続けてきた菊池英毅さんが8月28日、自民・公明政権の終焉を目前に逝去しました。菊池さんは「消費税なくす会」羽村代表をつとめ、「年金者組合」「健康友の会」「国民救援会」などの団体でも活躍しました。

菊池さんは「蟹工船」の作者小林多喜二が特高警察に虐殺された翌年、やはり特高警察に検挙されています。通夜、葬儀の参列者に配布したリーフに掲載した菊池さんの手記の要約を右に紹介します。

当時は日本が軍国主義につきすすみ、治安維持法を制定、創立当初から、「国民主権」「侵略戦争反対」を掲げた日本共産党を徹底して弾圧しただけで

なく、一般の民主的な運動や文化人、学者、宗教者も弾圧しました。現憲法は思想・信条の自由を保障しています。暗黒政治のもとの侵略戦争を礼讃する「靖国派」議員は、今回の総選挙で多くは落選しました。しかし、歴史を逆戻りさせようとする勢力は少なからずいて、油断はできません。当時の時代背景を振り返り、菊池さんの遺志を受け継ぎ、改憲を許さない運動をいっそうひろげる気持ちをこめて、簡単な年表をつくってみました。

- 1914年 第一次世界大戦
- 1915年 菊池英毅さん生まれる
- 1917年 ロシア革命
- 1918年
- 1922年 日本共産党創立
- 1925年 治安維持法公布
- 1928年 3・15事件 日本共産党にたいする全国いっせい大弾圧
- 1929年 「蟹工船」が「戦旗」に連載
- 1931年 柳条湖事件 日本が中国への侵略戦争を開始
- 1933年 小林多喜二 築地署に検挙 拷問により虐殺される
- 1934年 菊池英毅さん特高警察に検挙される
- 1937年 廬溝橋事件 日本が中国への全面侵略戦争を開始
- 1939～1945年 第二次世界大戦



小林多喜二



中国奥深く牛とともに軍する日本軍兵士

ばくられた 私

菊池英毅

1934年（昭和9年）12月、19歳の時、福井市に於いて、特高警察に検挙された。何のために検挙されたのか大きな疑問を抱いた。当時は現在（日本共産党員）のような自分ではなく、何もわからなかった。

当時、福井市には人絹工場が多く、女工さんも多く、私たちのグループにも活発な女性がいた。私たちは私と同じ職場で東大出のハンサムボーイであるK宅に夜集まり、「専制君主制打破」「唯物論」「労働と反戦」「生きるための未来論」など議論していた。そのKが上京し、東京駅で逮捕された。その後私の周辺に張り込みが見られるようになり、ついに夜中、刑事がバタバタと入ってきて、福井署へ連行された。

取調室では、最初は竹刀でテーブルをたたいて怒鳴っていたが、何もしゃべらないでいると、コンクリートの上に正座させられ、鞭で打たれるなど拷問が本格化した。それでも何の質問にも答えないでいると、数人で、何度も竹刀で頭を打たれ、左側が「ブヨブヨ」に腫れ膨らんだ。

何日も拷問に堪え忍んだ後、特高課長らしき人に担当が替わり、「君は真面目な意思の強い正義感の持ち主のようだ」といわれ、着替えをして、散歩に連れ出し、風呂に入れてくれるなど待遇が変わった。「懐柔工作」かとも思われたが、留置場に床屋が来て、散髪をしてくれて、課長から、「長い無言の行は辛かったろう、これから先、いろんな事があるんだ。強く生き抜くことだ」といわれ、近いうちに出られると感じた。

数日後、国鉄勤務の義兄が身元引受人として来署、私は釈放された。留置は29日間であった。

義兄は課長に「思想犯として起訴に当てはまるが、未成年であり、前途あるまじめな若者を犯罪者にできない」といわれたそうだが、どうやら共産党と関係ないからと判断されたようだ。

当時、日本共産党は徹底的に弾圧されていたようだが、これらの弾圧がなかったら、大戦は避けられ暗黒政治は起きなかったと思う。

戦争に反対し、国民主権のために命をかけてたたかった日本共産党の一員として、現在活動していることを誇りに思う。



2009年9月20日 951
発行 羽村民報編集委員会
責任者 野崎 衷
日本共産党羽村市議団のホームページ
http://www.jcphamura.org
事務所 電話 579-2132 FAX579-2106